

共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

運営会議よりお知らせ

分子科学研究所は広く分子科学分野コミュニティに開かれた運営を行うために、所内10～11名、所外10名のメンバーからなる運営会議を所長の下に設置しています。そこでは研究教育職員の人事、共同利用・共同研究等の研究所を運営する上で重要な事項について審議します。人事選考部会と共同研究専門委員会が運営会議の下に置かれています。また、運営会議は自然科学研究機構・機関長選考委員会（所長選考委員会）からの依頼を受けて、次期所長候補者の選考も行います。所外10名の候補は、関連学会（分子科学会、日本化学会、日本物理学会、錯体化学会、日本放射光学会、日本生物物理学会）から推薦を受けたメンバーが参加する学会等連絡会議において選考されます。所外の方には1期2年の任期で原則2期4年をお願いすることになっており、本年度、以下のとおり半数が交代になりました。分子研レターズにはすでに2名の方からご意見等を頂いております。*印は人事選考部会のメンバー（運営会議の中から所内5名、所外5名）です。人事選考部会で審議決定したことは運営会議で改めて審議する必要がないことになっています。一方、共同研究専門委員会（運営会議メンバー以外も委員となる）で審議したことは運営会議でさらに審議することになっています。運営会議長、人事選考部会長、副部会長、共同研究専門委員長は、それぞれ所内教授の岡本（新規）、斉藤（新規）、山本（新規）、青野（継続）が務めます。また、所外の神取教授には引き続き運営会議副議長を、大西教授には共同研究専門委員をお願いすることになりました。

平成26年度～平成29年度運営会議所外メンバー（新規） *印は人事選考部会のメンバー（以下同様）

- 大西 洋 神戸大学大学院理学研究科教授
 鈴木 啓介 東京工業大学大学院理工学研究科教授
 高田 彰二 京都大学大学院理学研究科教授（分子研レターズ66号）
 *田原 太平 理化学研究所主任研究員（分子研レターズ62号）
 *森 初果 東京大学物性研究所教授

以下は今年度より2期目を務められる方々です。

平成24年度～平成27年度運営会議所外メンバー（継続）

- 朝倉 清高 北海道大学触媒化学研究センター教授
 *神取 秀樹 名古屋工業大学大学院工学研究科教授（分子研レターズ64号）
 河野 裕彦 東北大学大学院理学研究科教授（分子研レターズ64号）
 *寺嵯 亨 九州大学大学院理学研究院教授
 *水谷 泰久 大阪大学大学院理学研究科教授（分子研レターズ63号）

以下は退任された運営会議所外メンバーの方々です。

これまでの多大なご支援、ご協力に感謝致します。ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

平成22年度～平成25年度運営会議所外メンバー（退任）

- 上村 大輔 神奈川大学理学部教授（分子研レターズ70号）（本号）
 *佃 達哉 東京大学大学院理学系研究科教授（分子研レターズ62号）
 *森 健彦 東京工業大学大学院理工学研究科教授（分子研レターズ70号）（本号）
 山縣ゆり子 熊本大学大学院生命科学研究部教授（分子研レターズ70号）（本号）
 山内 薫 東京大学大学院理学系研究科教授（分子研レターズ69号）

共同研究専門委員会よりお知らせ

共同研究専門委員会では、分子科学研究所が公募している課題研究、協力研究、分子研研究会、若手研究会、および岡崎コンファレンスの申請課題の審査を行っています。それぞれの公募の詳細については分子研ホームページ (<http://www.ims.ac.jp/guide/>) を参照いただきたいと思います。

申請いただいた共同利用研究は、共同研究専門委員会において審査を行った上で、その採否を決定しています。平成25年度の共同研究専門委員会は、所内からの委員7名と所外の委員4名から構成されていましたが、平成26年度より所外委員3名が交代致しました。これまで委員を務めていただいた所外委員の先生方（鹿野田一司（東大教授）、北川進（京大教授）、河野裕彦（東北大教授））には、この場を借りて御礼申し上げます。

共同研究の現状について、平成20年度から平成26年度前期分（平成26年6月20日現在）までの採択数の推移をまとめたものを下記に示しました。平成25年度の協力研究の件数が、前年度までに比べて減少していますが、これにはいくつかの理由が考えられます。この表には載らないものとして、協力研究にカウントされない予算（科研費や他の外部資金等）で実施している共同研究があります。平成25年度には、このような共同研究が167件（前期79件、後期88件）ありました。また、分子科学研究所は、文部科学省「ナノテクノロジープラットフォーム」事業における「分子・物質合成プラットフォーム」の実施機関となっており、通常の協力研究に加え、本事業における協力研究も実施しています。これらの要因により、協力研究の件数が、見かけ上減少したように見えているのではないかと考えられます。ただ、平成25年度に導入された共同利用研究申請の電子化（Web申請）が、協力研究の申請件数減少に関わっているのではないかと危惧もあり、もしそうであれば、Web申請システムの改善が必要となります。これまでも、利用者からの意見をもとにWeb申請システムの改良に取り組んできていますが、さらなる改善に向けて、Web申請システムに関するご意見等ございましたら幸いです。是非、所内対応教員あるいは共同研究専門委員会委員長（aono@ims.ac.jp）までお知らせ下さい。

現在、共同研究専門委員会において、現状の課題研究は、その位置づけがやや不明確なところもあるのではないかと意見を聞き、課題研究の見直しについても議論が進んでいます。課題研究の目的を明確化し活性化するため、いくつかのカテゴリー（例えば、協力研究の発展型としてのタイプ、新しい研究分野開拓の基盤作りを目指すタイプなど）を設定してはどうかとの意見が出ています。この点に関しても、よいアイデアがありましたら、是非、ご提案頂きたいと思っております。

共同利用研究の実施状況（採択件数）について

種別	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 (6月20日現在)
課題研究	2	1	0	1	1	2	1
協力研究	90	119	122	108	123	64	24
協力研究（ナノプラット）	—	—	—	—	—	51	22
分子研研究会	4	5	6	4	10	10	1
若手研究会等	1	1	1	1	1	1	2
岡崎コンファレンス	—	—	—	—	1	1	0
計	97	126	129	114	136	129	50

分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
平成26年3月12日～13日	金属クラスター錯体・高分子状金属錯体を舞台とした構造・機能化学の最前線	野呂真一郎（北海道大学電子科学研究所）	35名

若手研究会等

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
平成26年6月15日	第54回分子科学若手の会夏の学校 講義内容検討会	福田将大（京都大学大学院工学研究科）	18名
平成26年7月21日～23日	第12回ESR夏の学校	田中彩香（大阪市立大学大学院理学研究科）	31名